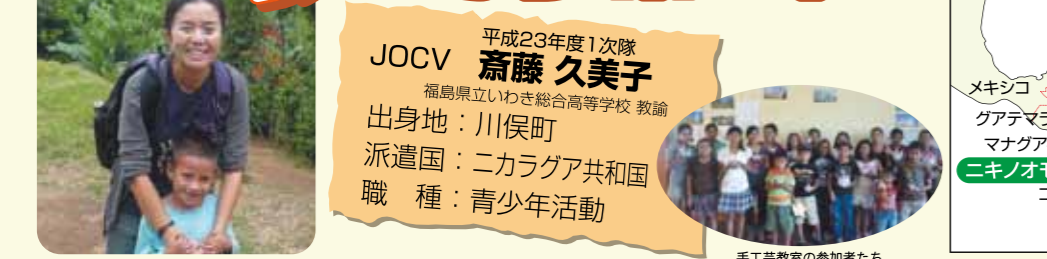


福島県出身 ボランティア ニカラグアより 現地レポート



¡Hola! ¿Cómo están? (※1) みなさんこんにちは、お元気ですか？

私は、青少年活動隊員としてニカラグア共和国の首都マナグアから車で約1時間の場所にある、人口約2万6千人の小さな町ニキノオモにある公立図書館で活動しています。青少年活動という職種は、配属先によって活動内容が大きく異なります。私は、4歳から12歳までの子供たち、また10代後半～50代までの女性を対象に、図書館職員と共に、読み聞かせや手工芸教室、英語教室などを行っています。(※2)

そもそも、ニカラグアの学校の授業は、午前中か午後の半日のみ。子供たちは主に、主要教科の学習を行っている、図工や家庭科の授業、クラブ活動などはほとんど行われません。また、授業はほとんど先生が黒板に書いたことを、子供たちが写す形態です。なかなか自分で考え、行動する力が育たず、自信がなく失敗することを極端に恐れる子ども、親や先生にすぐに頼ってしまう子どもの姿が多く見受けられます。また、全体的に集団で何かを成し遂げることが苦手な傾向があります。明るく素直で好奇心旺盛な子供たちだからこそ、図書館での様々な活動を通して、彼らが安心していろいろな経験をし、学校教育を補う教育機関として、彼らの成長の手伝いをしていきたいと思い活動しています。

また、ニカラグアの先生方も日本の教育に大変興味を持って下さっており、これからも意見交換をしながら日本の教育を伝え、ニカラグアの発展に貢献できればと思っています。

※1 公用語のスペイン語で「オラ コモエスタ」「こんにちは！お元気ですか？」の意味。
※2 女性は家庭に入ることが多く、男性に比べ教育の機会が少ない上に、離婚率も高いため、女性の精神的・経済的自立を促すために手工芸のクラスが実施されています。

斎藤さんは「現職教員特別参加制度」を利用しています！

現職教員特別参加制度とは…
教員の身分を保持したままJICAボランティアに参加できる制度です。派遣前訓練と海外派遣期間を合わせて2年とし、合格者は全て応募の翌年4月から訓練開始となり、2年後の3月下旬に帰国するので、学年の区切りをまたぐことがありません。

東日本大震災からの歩み ~白河観光人力車「新風亭」遠藤良一さん~

JICA二本松は昨年の東日本大震災において、福島県からの要請に基づいた避難者の受入れを行いました。多くの避難者が生活を送る中、少しでも快適な生活にすべく住民自治会を立ち上げました。その自治会長のお一人、遠藤良一さんを紹介いたします。

遠藤さんは富岡町で農業を営む傍ら、桜の季節には町随一の名所「夜の森公園」などで、観光客のために観光人力車を引いていました。震災後は避難を余儀なくされながらも、これまで観光人力車で繋がりがあった白河市との縁で、観光人力車「新風亭」を再開することになりました。記念のセレモニーでは、鈴木和夫白河市長も駆けつけ、白河の歴史や文化を盛り上げる役割を担ってほしいとエールを送りました。遠藤さんは、白河市をはじめ復興を支援してくれた関係者への気持ちを表すとともに、新天地での再起を誓いました。観光人力車に関するお問合わせ 白河観光物産協会 0248-22-1147



鈴木和夫白河市長を乗せ小峰城周辺を散策

福島県にゆかりのあるJICAボランティア 平成24年度 2次隊 (2012年9月出発)

青年海外協力隊 太田 旭 さん
①宮城県(福島学院短期大学出身) ②グアテマラ ③栄養士
「夢」を見つけれられるという事はとてもラッキーな事だと思います。もしも運良く見つけれられたのなら、叶えるべく努力あるのみ自分を育ててくれた全ての方への恩返しに努めるような気持ちで、元気に行つてきたいと思っています。

青年海外協力隊 榎田 ひかる さん
①茨城県(祖父母がいわき市在住) ②中華人民共和国 ③日本語教師
二本松の方々のあたたかいご支援や、スタッフの皆さん、そして仲間たち、たくさんの方々に支えられながら、学びの多い毎日を送っています。この訓練所で学んだ知識や技術を任国で活かせるように努力します。任国では、現地の人々と二人三脚で活動をしていきたいと考えています。

青年海外協力隊 齋藤 真里 さん
①二本松市 ②コロンビア ③作業療法士
二本松で育ち、憧れだった協力隊。自分がその一人となり、公人としての責任を感じながら皆さんの支援のもと切磋琢磨の日々を送っています。任国では、共に働き、理解し合い、両国に貢献できるよう頑張ります。

青年海外協力隊 佐藤 真奈 さん
①郡山市 ②バングラディッシュ ③環境教育
学生の頃から目標としていた環境教育隊員として協力隊に参加することが出来、とても嬉しく思います。強く抱いた夢は必ず叶うと私は確信しています。任国では気負わず、日々を楽しみながら活動に動きたいと思っています。

Infomation

平成24年度 JICAボランティア秋募集

下記の日程において、県内各地で秋募集説明会を開催いたします。各会場では、応募の説明のほか、実際にJICAボランティアで海外へ行かれた方の体験談やJICAスタッフへの個別相談の時間も設けておりますので、興味のある方は是非足をお運びください。

10月7日(日)	14:00~	コラッセふくしま4階 小会議室402
10月13日(土)	未定	鶴ヶ城体育館(会津国際交流フェスティバル内で実施)
10月14日(土)	14:00~	郡山市ビッグアイ第二会議室
10月20日(土)	14:00~	LATOV6階 いわき産業創造館 会議室1
10月21日(日)	15:30~	JICA二本松

【同時開催】
JICAボランティア一体験
訓練中のボランティアとの交流や語学授業体験、また国際理解ワークショップに参加することができます。

講座のご案内 「国際協力担当者のためのPCMを活用したプロジェクトセミナー」(※JICA二本松)
10月27日(土)28日(日)(計画・立案コース)及び11月10日(土)11日(日)(モニタリング・評価コース)
詳しくは、別途JICA二本松ホームページに掲載予定ですのでご覧ください。

お詫びと訂正 あだたら2012年春号(通算26号)において掲載が誤りがありましたのでお詫びし訂正いたします。
誤 立谷清秀(たちやきよひで)相馬市長→正 立谷清秀(たちやきよ)相馬市長

青年海外協力隊 都甲 貴廣 さん
①福島市 ②フィジー ③小学校教諭
日本のはるか南にあるフィジーの小学校で活動します。今までお世話になった人、これから出会う人々に感謝の気持ちを持ち、精一杯努力を続けていきたいと思っています。

青年海外協力隊 村田 美奈 さん
①富岡町 ②ホンジュラス ③感染症対策
震災の影響で大切な人達が辛い思いをしている中、私の夢を応援してくださいに感謝でいっぱいです。私の任国は途上国ながらも救援基金に参加しているため、その御恩を私の出来る事で返していきたいと思っています。

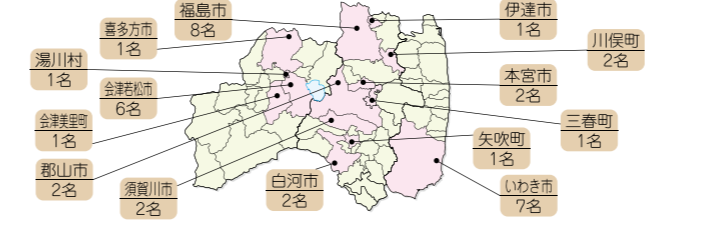
青年海外協力隊 室井 研一 さん
①郡山市 ②ヨルダン ③体育
震災から1年が経ち、まだまだ復興への道のりは遠いですがその中でこうして青年海外協力隊へ参加できたことにはいろいろな思いがあります。派遣国ヨルダンでの生活では常に相手の目線に立ち、多くの人たちに寄り添っていけるような活動を目指していきたいです。

福島県出身JICAボランティア 2012年7月31日現在

合計派遣中 50名 / 累計 657名

青年海外協力隊員数		日系社会青年ボランティア数	
派遣中	41	累計	600
派遣中	0	累計	9
シニア海外ボランティア数		日系社会シニアボランティア数	
派遣中	8	累計	43
派遣中	1	累計	5

※2011年冬号まで「あだたら」の青年海外協力隊員数・シニア海外ボランティア数には、短期ボランティアの人数を入れておりましたが、2012年春号からは含めて記載しております。また累計は延べ人数(複数回派遣を含む)になっております。



9月~11月のイベント情報

9月13日	平成24年度2次隊 派遣前訓練 修了式
9月14日	国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト 応募締切
9月29日~30日	ふくしまグローバルセミナー2012
10月11日	平成24年度3次隊 派遣前訓練 入所式
10月22日	グローバル教育コンクール2012 応募締切
11月17日~18日	ニュース国際協力ミーティング'12

ふくしまFM キミノチカラ、海をこえて ~青年海外協力隊の道~
毎週土曜日 朝8:30~8:55 放送中
JICAボランティアとして世界で活躍した県内在住の方々の派遣の動機や活動の様子、帰国後どのようにその経験を活かされているのか、その国の音楽とともにお送りしています。
☆番組ブログ、Facebookも随時更新中☆
福島県山 81.8Mhz 会津 82.8Mhz 原町・いわき 78.6Mhz 白河 79.8Mhz
キミノチカラ、海をこえて 検索

JICA ジャイカ 二本松青年海外協力隊訓練所 ニュースレター

あだたら



二本松と世界を結ぶ路線バス

特集 サポーター宣言 ~福島交通~

独立行政法人国際協力機構 二本松青年海外協力隊訓練所
〒964-8558 福島県二本松市永田字長坂4-2 TEL.0243-24-3200 FAX.0243-24-3214
募集・広報担当 E-mail: jicanjv@jica.go.jp JICA二本松 検索
「あだたら」バックナンバーがWeb上でご覧いただけます URL: http://www.jica.go.jp/nihonmatsu/office/pr.html
読者の皆様へ JICA福島デスク 〒960-8103 福島市舟場町2-1 公益財団法人 福島県国際交流協会内 電話 024-524-1315 FAX 024-521-8308 Email: jicadpd-desk-fukushimaken@jica.go.jp
福島県内の小・中・高・大学等、会社、団体で行っている国際協力活動を紙面でご紹介します。情報をお寄せください。 ※本誌に関するお問合せは、上記「JICA福島デスク」(八巻)までよろしくお願ひします。

青年海外協力隊を応援します!

サポーター宣言

福島県
第一号!

グローバル人材・CSR・BOPビジネスの可能性

福島交通 株式会社

サポーター宣言について

企業や団体、自治体、教育機関等の皆様には「サポーター」として、青年海外協力隊をはじめとしたJICAボランティア事業をご支援いただくとともに、JICAボランティア事業をそれぞれのご活動に有益なものとして積極的に役立てていただいています。

バスの中で見たポスターが、世界につながる「きっかけ」となしてほしい。

福島交通株式会社郡山支社
乗合営業課 課長
さとう まさし
佐藤 正史 さん
(元・二本松営業所 所長)



福島交通株式会社
貸切営業部 貸切営業課
この ひみたか
紺野 文孝 さん
平成19年度3次隊
派遣国：ドミニカ共和国 職種：柔道

人とのつながりを大切にしながら福島のために仕事がしたい。

●JICA二本松と福島交通のつながりを教えてください。

平成6年の二本松訓練所開設当初から、訓練所と二本松駅を結ぶバス路線を開設しました。以来、ボランティア候補者やセミナーに参加する高校生などにご利用いただき、大のお得意様です。また、歴代の訓練所長とも交流があり、ボランティア候補者の訓練所の入所日には、二本松駅で全国から集まってくる候補者のお出迎えもしましたし、訓練の修了式には必ず出席するなど、日頃からお付き合いさせていただいております。

●サポーターとして、ポスター掲示による広報活動支援を行ってくださっている理由をお聞かせください。

通常、車内の広告スペースは有料ですが、無料でJICA二本松さんに提供してボランティア募集広告を掲示してもらっています。もともとバスの利用者は中学・高校生が多いのですが、そういった若い人たちがたまたま乗ったバスで見かけたポスターが、その後の彼らの夢への「きっかけ」となしてほしいという思いがあります。

自分の子どもと同じ歳ぐらいの若者たちが、過酷な環境で2年間も活動してくることを思うと、がんばってほしいという思いがあります。また、東日本大震災後、普段では聞きなれないような国々からも日本に支援が届いたことを知りました。その中にはこの二本松から飛び立ったJICAボランティアの皆さんが活動されている途上国の国々も含まれておりました。自分たちは何もできないけれど、そういった支援をくれた国々へいかれるJICAボランティアの皆さんを応援することで、私も世界の国々を支援することに携われたらと思っています。

●JICAやJICAボランティアに対するイメージはいかがですか。

日本に比べたら、厳しい生活環境のもとで活動されるかと思いますが、そういった国に自らすんで行く人がいるというのは、頼もしいことだと思います。日本も捨てたもんじゃなないなと思いました。若いうちにしかできないこともあると思うので、いろいろな経験をすることは後に役立つことだと思います。

●福島交通には協力隊の経験者が勤務されていますが、思うことはありますか？

2年間厳しい環境の元、活動してきただけあって忍耐強いという印象があります。会社の仕事は学校の勉強ができるだけではやっていけないところですが、協力隊経験者は適応力や応用力があり、部下として入ってきたら頼もしい存在です。どこの会社に行ってもそれなりの評価をされる存在だと思います。



バス車内に掲示されたJICAボランティアの募集広告

●ドミニカ共和国ではどのような活動をされてきたのですか。

配属先のサントドミンゴ自治大学で必須科目となっている武道の中でも、特に柔道の指導を行ってきました。指導していた学生2人が、ユニバーシアードという世界大会に出場したときは大変感動しました。帰国後も地元・飯坂のスポーツ少年団で柔道の指導をしています。

●帰国後、福島交通に入社された理由、また現在のお仕事について教えてください。

帰国後は、福島に貢献できる仕事がしたいと考えていたので、地元企業である福島交通への就職を決めました。現在所属している貸切営業部では、県内外からのバスツアーを担当しています。震災後、風評被害で観光客が減っている中でも、福島の良いさを再発見・発信できる現在の仕事にとてもやりがいを感じています。

●協力隊の経験は現在のお仕事でどのように活かしていますか？

営業という仕事柄、人との出会いや人の繋がりを大切にしています。その根底には、ドミニカ共和国という全くの異文化の中で、人に対して指導することで培われたコミュニケーション能力が活かしていると思います。どんな時でも常にポジティブな切り口で話をするという心がけは、ドミニカ共和国での活動を通して学び、実践していたことでした。

●福島交通がJICAサポーターとなったことについてどう感じですか。

職場でJICAの話が出てくることを嬉しく思い自慢しています。JICAサポーターとなったことで、職場の人たちにJICAや協力隊のことをより知ってもらえるきっかけにもなりました。ポスター広告の掲示は小さなことかもしれませんが、それを見た誰かの背中を押すきっかけになれば嬉しいです。

【会社概要】
福島交通株式会社
代表取締役社長 松本 順
所在地 〒960-8132 福島県福島市東浜町7-8
設立日 昭和61年7月9日
URL <http://www.fukushima-koutu.co.jp/>

「サポーター宣言」WEBサイトでは福島交通株式会社をはじめ、様々な連携事例を紹介しております。ぜひご覧ください。
URL <http://supporter.jica.go.jp/>

平成23年度教師海外研修 ベトナム国派遣 研修報告会

JICAでは、開発途上国で行われている支援の現場へ赴き、そこで見聞きした経験を教育現場で活かすためのプログラム、「教師海外研修」を実施しています。昨年度は、目覚ましい経済発展を進める国、ベトナムへ福島県内から8名の先生方を派遣しました。去る7月21日、福島市内にて研修の集大成となる報告会が行われました。学校での授業や取組についての報告や、日本とベトナムの共通点・相違点を見つける授業、アジアをイメージした美術作品の制作など、研修を通して学んだ知識や経験を活かした活動報告がなされました。

報告会の合間には、世界につながる一歩として用意した、地域で見つかる世界のお茶やお菓子とともに報告会に参加された方々と意見交換を行うなど、有意義な時間を過ごすことができました。



外からもご覧いただけるように、ガラス張りの会場で実施された報告会

24年度1次隊 被災地支援ボランティア活動 ～NPO花見山を守る会～

二本松・駒ヶ根(長野県)にある両訓練所では、訓練終了後に被災地の復興支援を目的としたボランティア活動を奨励しています。

今回は、震災直後から被災者支援のため精力的に活動されている「NPO花見山を守る会」の運営する農園(※)の整備支援、地域に点在する仮設住宅の清掃活動などに参加させていただきました。

この支援活動に参加したJICAボランティア達が任国に赴いた際に、現地の方々へ日本の復興の様子や、たくさんの方々の支援への感謝を伝えてもらうことで、両国のより良い関係づくりになることを期待しています。

※農園は、地域の空き農地を利用し、被災者の健康増進や雇用促進を目的として運営されています。



地域のボランティアの方々を整備した農園にて



ベトナム

科学的根拠に基づく医療サービスを提供できる人材育成を行っています。



実施団体：福島県立医科大学公衆衛生学講座・福島県生活環境部国際課
案件名：ホーチミン市医科薬科大学および管轄地域における、科学的根拠に基づく保健医療サービス向上のための人材育成事業
期間：平成22年4月～平成25年3月

世界的に「科学的根拠に基づく医療」の提供が重要視されていますが、途上国ではデータを収集する技術不足が問題になっています。さらにベトナムでは、地方と中央での教育の格差、大学間での教育レベルの違いが指摘されています。このような課題を抱える中、ホーチミン市医科薬科大学は福島県立医科大学公衆衛生学講座と協力して、データ収集や分析についての疫学研修を実施して成果を上げてきました。

今後の課題は、現地大学が主体となって研修を実施できるような体制の構築と、医師が習得した知識と技術を医療サービスの提供に活用できるようになることです。計画の最終年度である今年は、5月に9名の研修員が来県し、指導者養成のための研修を受講しました。

県庁表敬訪問では「福島県民の多くは、震災前の生活を取り戻している、そして復興に向けた努力を続けていることを、直接感じました。この事実をベトナムに帰って伝えたい」との言葉がありました。7月には福島医大、福島県職員らによる、ホーチミン市での研修が行われました。研修の一部は現地講師のみで行うようになってきており、いよいよ活動の主体も現地側に移ってゆきます。



研修が無事終了し、充実した表情を見せる研修員

JICA草の根技術協力事業紹介

草の根技術協力事業について

日本のNGO、大学、地方自治体及び公益法人の団体等がこれまでに培ってきた経験や技術を活かして企画した途上国への協力活動をJICAが支援し、共同で実施する事業です。今回は福島県内の2つの団体による活動を紹介します。
※福島県を含む東北6県の草の根技術協力事業は宮城県仙台市にありますJICA東北が担当しております。
URL <http://www.jica.go.jp/tohoku/>



エチオピア

住民が主体となって木を植え、森を育て守る環境づくりに取り組んでいます。



実施団体：特定非営利活動法人フー太郎の森基金 (F.F.F.)
案件名：ラスト郡農村開発事業-住民参加による循環型農林業の試み
期間：平成21年10月～平成24年10月

首都アジニアベバより約600km北西部に位置するラリベラは、世界遺産である岩窟教会で広く知られており、毎年5万を越える観光客が訪れています。しかしながら、地域住民が生活するラリベラとその周辺においては、森林減少や不適切なごみ処理など生活環境の悪化が問題となっています。福島県相馬市に本拠地を置く特定非営利活動法人フー太郎の森基金(以下、F.F.F)は、これらの問題を改善するために、住民グループによる有機ごみの堆肥化や、堆肥を活用した緑化、植林地と放牧地の適正な管理、さらには子どもを対象とした環境教育を中心に、持続可能な育林システムの定着を目指した活動を1999年より続けています。

2009年からスタートしたJICA草の根技術協力事業では、3年間で150万本の植林を行っています。苗木生産、植林地の確保など、木を植えるまでの準備もさることながら、それ以上に頭を悩ますのが、植林後の管理です。本事業も残すところ2か月、村人による自主管理のためのリーダー養成に注力するとともに、行政などの関係者による森林の管理体制についても総仕上げをしています。

3.11の大震災により、相馬本部事務所との連絡が途絶え、現地の活動資金も底をつくなど、想定外の状況に陥りました。エチオピア側でも大変な動揺が走ったものの、事務所とスタッフの無事が確認できた後は、幸いにも目標達成に向けての一体感が高まりました。



小学校の環境クラブも植林に協力します。

※なお、福島県内においては、福島県ウズベキスタン文化経済交流協会(福島市)によるウズベキスタンの果樹栽培技術向上事業が実施されています。こちらは次号以降、改めてご紹介いたします。